



2025

**国際理解・国際協力のための  
作文・感想文コンテスト**

**優 秀 作 品 集**

---



日本国際連合協会山口県本部

Yamaguchi Prefectural Chapter of the  
United Nations Association of Japan

## 序

国際連合(国連)は、世界の平和と経済・社会の発展のために協力することを誓った独立国が集まって設立された機関で、現在 193 ヲ国が加盟し、日本は昭和 31 年(1956 年)に加盟しました。

山口県では、昭和 27 年(1952 年)に「県民の運動として国連の目的実現に協力すること」を目的に、日本国際連合協会山口県本部を設立して以来、県民の皆様に国際社会の平和や安全をはじめ貧困等の諸問題を身近に考えていただき、国連の役割や国際理解を一層深めていただけるよう活動を行っています。

今年度の、「国際理解・国際協力のための中学生作文コンテスト」、「高校生による SDGs に関する感想文コンテスト」では、県内から多数の御応募をいただき、その中から、優秀な作品を選び、この作品集に掲載しましたので、ぜひご一読ください。

日本国際連合協会山口県本部

本部長 田中 マキ子

### 日本国際連合協会山口県本部について

#### 主な活動内容

- ◆ 「国際理解・国際協力講演会」等の開催
- ◆ 各種コンテストの開催
  - 「国際理解・国際協力のための中学生作文コンテスト」
  - 「高校生による SDGs に関する感想文コンテスト」
  - 「外国人による日本語スピーチコンテスト」

#### ホームページ

<https://unaj-yamaguchi.sakura.ne.jp/>



# 国際理解・国際協力のための作文・感想文コンテスト 2025

## 優秀作品集目次

### 中学生の部 第 65 回 国際理解・国際協力のための中学生作文コンテスト

#### 特賞（山口県知事賞）

2

「複数の国で協力して、取り組むべきと考える優先課題は何か。」  
～ 明日を見るということ ～

野田学園中学校 3年 高橋 美乃璃

#### 特賞（日本国際連合協会山口県本部長賞）

4

「あなたが考える平和とは何か。そのために何をすべきか。」  
～ 私が考える平和 ～

宇部市立西岐波中学校 3年 上田 菜桜

#### 優秀賞（公益財団法人山口県国際交流協会理事長賞）

6

「あなたが考える平和とは何か。そのために何をすべきか。」  
～ 世界と平和と私 ～

下関市立安岡中学校 3年 山田 柚菜

#### 優秀賞（山口県ユネスコ連絡協議会長賞）

8

「あなたが考える平和とは何か。そのために何をすべきか。」  
～ スマホの中の小さな平和 ～

野田学園中学校 3年 岡本 一

#### 特別賞（国際ソロプチミスト山口賞）

10

「複数の国で協力して、取り組むべきと考える優先課題は何か。」  
～ 国際協力に対する意識 ～

山口県立下関中等教育学校 3年 牧 和花

#### 特別賞（山口ロータリークラブ会長賞）

12

「あなたが考える平和とは何か。そのために何をすべきか。」  
～ 平和のために私が出来ること ～

下関市立安岡中学校 2年 村田 安衣

## 高校生の部 第32回 高校生によるSDGsに関する感想文コンテスト

### 特賞（山口県知事賞）

15

SDGs⑭：海の豊かさを守ろう  
「海と歩む私の未来」

山口県立徳山高等学校 3年 松永 七海

### 特賞（日本国際連合協会山口県本部長賞）

17

SDGs⑬：気候変動に具体的な対策を  
「『好き』で未来を切り拓こう」

野田学園高等学校 2年 新谷 綾子

### 優秀賞（公益財団法人山口県国際交流協会理事長賞）

19

SDGs④：質の高い教育をみんなに  
「すべての人に質の高い教育を」

野田学園高等学校 2年 出口 莉麻

### 優秀賞（山口県ユネスコ連絡協議会長賞）

21

SDGs⑯：平和と公正をすべての人に  
「揺れる瓶の正体」

萩光塩学院高等学校 2年 島田 大睦

### 特別賞（国際ソロプチミスト山口賞）

23

SDGs⑭：海の豊かさを守ろう  
「海」

萩光塩学院高等学校 2年 上田 天晴

### 特別賞（山口ロータリークラブ会長賞）

25

SDGs⑥：安全な水とトイレを世界中に  
「オーストラリアで感じた世界の課題」

萩光塩学院高等学校 2年 田村 衣織

### 佳作

27

SDGs⑪：住み続けられるまちづくりを  
「未来のくらしのために」

野田学園高等学校 2年 森福 歩生

第 65 回

国際理解・国際協力のための  
中学生作文コンテスト

---

優 秀  
作 品 集

## 特 賞（山口県知事賞）

複数の国で協力して、取り組むべきと考える優先課題は何か。

～ 明日を見るということ ～

野田学園中学校 3年 <sup>たかはし</sup>高橋 <sup>みのり</sup>美乃璃

当たり前のように「明日」という日を見ることができない子供たちが、億単位で存在している。私がそれを知ったのは、ついこの前のことだ。

先月、学校の課題でSDGsについて調べる機会があった。その際、私は初めて発見したことがあった。それは、SDGsの17の目標を設定するに当たっての現状問題の中に、子供に関するものが多いということだ。それらは既に知っているものがほとんどであったが、中学三年にしてようやく考え始めたのだ。私は今日まで、飢餓、暴力、紛争などによって、失われるはずがなかった命が、どれだけ地球上から消されてしまったか、一度も考えたことがなかった。私の友人10人にこの質問をしたところ、あると答えたのはたった2人しかなかった。このことから、今現在、複数の国で協力して取り組むべき優先課題は「世界中の子供たちが、理不尽な理由で命を落とさないための方法を、先進国が率先して考える機会をつくる。」だ。以下、まず今ある取り組みについて、次に、新たな取り組みについて述べる。

いくつかある取り組みの中で、紛争地域で生きている子供たちへの支援を重点的に見ていく。さらにその中でも、保健医療や防寒機具、シェルターの提供など、いくつか支援の種類がある。それら全てに対して一番初めに思ったのは、「80年の間、なぜ未だにそんなことをしているのか」だ。国際連合が創設されてから80年。それだけあれば、もっとできることがあったのではないかと思う。確かに、現地の子供たちにとってはとても助かることばかりだ。しかし、それでは根本的な解決にはなっていない。根本的な解決、それは「紛争をなくす」ということ。私たちはずっと昔、何万年も前から争いを繰り返している。それを80年でなぜなくすことができなかったのか、と言う私はおかしいのかもしれない。それでも、紛争がなくなる気配すらない、というのはどうなのだろうか。一体いつになったら全てを解決できるのだろうか。これが私のもった率直な感想だ。

次に、これから、前述した優先課題を達成するための新たな取り組みを一つ提案する。それは、「先進国の子供たちに、作文や絵などの作品を、是非作ってもらう。」ということだ。その作品というのは、「世界中の子供たちが、理不尽な理由で命を

落としていること」に関するものだ。その作品を作るためには、ほんの僅かでもその知識が必要である。したがって、義務的に作品を作らせれば、それに伴って必要な知識を調べ身につける機会を得ることとなる。そこで、大切なのは「調べる」だけではダメだということだ。今の時代、インターネットを使えば、情報はとても簡単に手に入る。簡単に手に入ってしまうから、私たちは簡単にその情報を忘れてしまう。手に入れた情報を探求し、それを使って創造する。そういう行為にふさわしいのが、「作品を作る」ことだと私は考えた。

世界のどこでも、誰でも、何の動物でも、植物でも、大地でも、海でも、地球にいる限り、時間だけは平等に過ぎていく。どんなときでも明日は来る。明るい日と書いて明日。しかし、それは誰にとっても明るいわけではない。これは決して他人事ではなく、日本にも暗いアシタを見ている人がいる。子供にもいる。このことを胸に抱えて、私たちは生きていかなければならないと思う。

最後に、私には最近できた夢がある。「世界中の子供たちが、誰一人欠けることなく明日を見られる世界を、私たちが実現すること」私は、その容易ではない夢を叶えるために、自分という明日を見るために、今日を一生懸命生きていく。

## 特 賞(日本国際連合協会山口県本部長賞)

あなたが考える平和とは何か。そのために何をすべきか。

～ 私が考える平和 ～

宇部市立西岐波中学校 3年 <sup>う え だ</sup> <sup>な お</sup> 上田 菜桜

私が考える平和は、戦争や争いがないことだけではなく、みんなが安心して生活できることだと思います。家族や友達と笑って過ごせること、学校で自分の意見を言ってもらえること、病気になっても助けてもらえること。毎日の当たり前の生活の中にこそ、平和があると感じます。私が「平和」を身近に感じるのは、朝起きて家族と「おはよう」と言い合い、学校に行って授業を受け、放課後に友達とおしゃべりをして塾に行く、そんな日が続くときです。ふつうであることのありがたさは、ニュースを見るたびに分かります。そして、この安心は多くの人の努力で支えられていることも忘れてたくありません。見えないところで働く人たちへの感謝も、私の中の平和を育てます。

私はオーストラリアにホームステイしたとき、自分の国籍が違うからといって差別されることはありませんでした。ホストファミリーも地域の人、初めての人ばかりなのに、みんな笑顔であいさつしてくれて、私の英語もゆっくり聞いてくれました。文化や習慣が違って、みんな同じ人間なんだと実感しました。食事のルールや過ごし方が日本と違って戸惑う場面がありましたが、「あなたのやり方を教えて」と受け入れてくれたことで安心して生活できました。違いを認め合い、人を大切にすることが第一歩だと感じました。

では、私に何ができるのでしょうか。平和は遠い存在の大人がつくるものではなく、私たち一人ひとりの小さな行動が積み重なって生まれるものだと思います。例えば、困っている友達を助けたり、意見がぶつかったときに最後まで話を聞いたりすることは、学校の雰囲気をやさしくします。そうした空気が広がることで、学校全体が安心できる場所になり、小さな平和をつくることにつながると思います。家庭でもできることがあります。家族と協力してルールを守り、一緒に食事を楽しみ、食べ物や水をむだにしないこと。忙しい日でも「ありがとう」と言うこと。こうした習慣は、家の中の平和を守るだけでなく、学校や地域での関わり方にもつながると感じます。

世界の平和のためには、いろんな国の文化や考え方を知ろうとすることが必要だと思います。私も留学でいろんな人の考え方に触れ、違う意見でもまず受け入れる

ことの大切さに気づきました。そういう経験を積むことで、争いを避け、みんなで協力して問題を解決できる社会に近づくと思います。

世界には、私たちと同じように「平和に暮らしたい」と願っている人がたくさんいます。けれど、今も戦争や争いで家を失い、安全な場所を求めている人がいることをニュースで知りました。そんな現実を考えると、私たちの「当たり前の毎日」がどれほど大切でどれほど守るべきものなのかを改めて感じます。

平和は、誰か一人の力だけで作れるものではありません。学校や家、地域での小さな行動や、世界の人と気持ちを分かち合うことが積み重なって初めて守られるものです。私もこれからも、自分にできることを考えて行動しながら、少しずつ平和に関わっていきたいです。

私はホームステイで笑顔で迎えてくださった人たちのやさしさに救われた経験があります。だからこそ、今度は私が誰かに安心を与えられる人でありたいと思います。こうした小さな思いやりが、世界の平和につながると信じています。

## 優秀賞(公益財団法人山口県国際交流協会理事長賞)

あなたが考える平和とは何か。そのために何をすべきか。

～ 世界と平和と私 ～

下関市立安岡中学校 3年 <sup>やまだ ゆな</sup> 山田 柚菜

今、日本では物価高で「高い」や「買えない」などと言う人もいますが、世界ではその日の食べる物が無い人もいます。その中でみなさんが考える平和とは何ですか。私が思う平和とは、ただ戦争がないことだけではなく、すべての人が平等に安心して暮らせる社会だと思います。

近年では難民問題が話題になっています。戦争や自然災害で家を失った人々が新しい場所を求めて国境を越えて逃げる姿をニュースなどで目にすることがあります。そのようなニュースを見るたびに私はとても心が痛みます。彼らはただ平穏に暮らしたいと願っているだけなのに、なぜその願いが叶わないのか、その理由が理解できないことが多いです。また、私たちが住んでいる日本でも過去には戦争があり、多くの命が失われました。その歴史を振り返ると平和の大切さがどれほど重いものかを実感します。私は戦争で命を落とした人々のことを考えると、無駄な争いがどれだけ多くの人の未来を奪ったのか、改めて悲しくなります。平和があつてこそ人々は新しい希望を持ち、未来に向けて歩みを進めることができると思います。しかし、今の世の中でも平和が完全に実現されているわけではありません。テロや民族間の争いなど、世界には解決されていない問題がたくさんあります。そのため、私たちが平和を実現するために、どのように行動すべきかを考えることはとても大切だと思います。

まず最初に、私たちは「争いを避ける」ことが大切です。日常生活の中で友達と意見が合わないことがあります。その時に、感情的になって相手の意見を聞かなかつたり、自分の意見を押し付けたりするのではなく、しっかりと話し合い、理解し合うことが平和への第一歩だと思います。小さな争いを避けることで大きな争いを未然に防ぐことができます。次に他人を思いやる心を持つことも平和につながる大切なことです。私は、周りの人に対して優しさや気遣いを持つことが社会全体の平和を作るために必要だと思います。例えば、学校でもいじめや差別が問題となることがあります。そんな時こそ、一人一人が「他人を大切にする」という心を持ち続けることが重要です。さらに、世界平和を作るためには、私たち一人一人が

「世界の問題」に対して関心を持ち行動することが求められます。例えば、貧困や飢餓に苦しんでいる国々への支援活動に参加したり、環境保護活動を通じて地球温暖化を防ぐために努力したりすることです。私たちが住んでいるこの地球は、全ての人々が共に生きる場所であり、世界中の問題が私たちにも影響を与えることを理解し、積極的に協力し合うことが平和を作るために必要な行動だと思います。また、平和についての教育も大切だと思います。学校で平和について学び歴史や現在の問題について考えることで、私たちは平和の大切さをより深く理解することができます。歴史の中で平和を守るために戦った人々の姿を知ることが、私たちが今、何をすべきかを考える手助けとなるはずです。知識を深めることで、よりよい社会を作るために力を合わせていくことができると思います。

私たちにできることは、決して大きなことではありません。日常の中での小さな行動の積み重ねがいつか大きな変化を生み出すと信じています。だからこそ、私はまず周りの人々に対して優しさと思いやりを持ち続けることを大切にし、日々平和のために何ができるかを考え続けたいと思います。平和は一日で実現できるものではありません。ですが、私たち一人一人の行動が集まることで、少しずつでも現実になっていくと思います。これからも、平和を大切にし、平和を実現するためにできることを少しずつ積み重ねていきたいです。

## 優秀賞(山口県ユネスコ連絡協議会長賞)

あなたが考える平和とは何か。そのために何をすべきか。

～ スマホの中の小さな平和 ～

野田学園中学校 3年 おかもと 岡本 はじめ 一

「平和」と聞くと、戦争やテロがない状態を思い浮かべる人が多いかもしれない。でも、私にとっての平和は、それだけではない。安心して言いたいことが言える、誰かと心からつながれる、そんな日々の中の「心の平和」も大切な平和の形だと思う。そして私は、スマホの画面の中に、そんな小さな平和があるのではないかと感じている。

私は日ごろからSNSを使っている。最初はただの娯楽だったけれど、あるとき、「この画面の向こうには、世界中の人がいるんだ」と気づいた瞬間があった。違う国の言葉のコメントを見かけたり、英語の投稿に反応したり、知らない誰かと心が通じた気がして、うれしくなったこともある。

私はこれまでに、オーストラリアとフィンランドを旅行したことがある。どちらの国の人たちも、初めて会った私たちにとってもフレンドリーだった。言葉に自信がなくても笑顔で受け入れてくれたし、質問にも親切に答えてくれた。そのとき私は、国と国の間にあるのは「言葉の壁」ではなく、「心の壁」なのだと感じた。

欧米のほうでは、見ず知らずの人でもすれ違ったらあいさつをする文化がある。初めての人でも、まずは「Hello」と声をかける。それが当たり前だからこそ、相手との距離がぐっと縮まるのだと思う。言葉が完ぺきでなくても、心が開いていれば思いやりは伝わる。そんな経験から、私は「平和」は、日常の中の小さなやりとりからも生まれるのだと学んだ。

日本に帰ってきてからも、SNSでその国の人たちの投稿を見たり、たまにやりとりをしたりしている。使い方を誤らずに正しく使えば、SNSは国や文化の違いを超えて人と人をつなぐことができる。言葉が通じにくくても、やさしい気持ちは伝わる。

もちろん、SNSで世界の戦争を止めることはできないかもしれない。でも、「この人と話すと安心するな」と思える時間が少しでもあれば、人の心の中の平和は保

たれているのではないかと思う。

ただし、SNSには危険な面もある。悪口や誤解から争いにつながることもあるし、思いやりのない言葉が人を深く傷つけることもある。だから私は、SNSを通じて平和を広げていくために、もっと具体的な工夫が必要だと思う。

たとえば、国連が目指す「持続可能な開発目標」の中には、「平和と公正をすべての人に」という目標がある。学校の授業でSNSの使い方や、文化のちがう人と交流する練習をすることも、この目標の実現につながると思う。また、国連が行っている「ユースフォーラム」や「国際理解教育」などの活動をもっと身近に感じられるようなSNSキャンペーンや交流プロジェクトがあれば、若い世代も自然に国際的な協力を意識できるのではないだろうか。

私が考える平和とは、安心していられること。戦争を止めることも、世界を平和にすることも、一人ではできない。でも、言葉の使い方を意識することは、誰にでもできる。

SNSの中でやさしい言葉をかけたり、違う文化の人とつながったりすることは、小さいけれど確かな平和の一步になる。スマホの中のひとつのメッセージが、誰かの心を少しあたたかくするなら、それはもう立派な「心の平和」なのではないか。

あなたは、どんな言葉を選び、どんな空間をつくっていきたいですか？

## 特別賞(国際ソロプチミスト山口賞)

複数の国で協力して、取り組むべきと考える優先課題は何か。

～ 国際協力に対する意識 ～

山口県立下関中等教育学校 3年 <sup>まき</sup>牧 <sup>のどか</sup>和花

「国際協力」という言葉を聞いて初めに思い浮かんだのは、世界各国が何か一つの出来事に対して協力することだと思った。この時私は、身近な言葉でもない「国際協力」について少し興味が湧いた。国際協力といっても一概にこれといったものはなく、たくさんの事例がある。その中の一つに自然災害への国際的支援体制というものがあった。日本でも2011年に起きた東日本大震災で国際的支援を多く受けていた。被災地に駆けつけた国際救助隊の姿や、海外から届いた物資、募金活動などの多くの援助に、世界には日本のことを思ってくれる人がたくさんいるのだなと思い、温かい気持ちになった。

アメリカは海軍の空母やヘリコプターが物資を運び、兵士たちが瓦礫を片付け、被災者の援助を行っていた。さらに韓国や中国などの国が救助隊を派遣し、行方不明者の捜索なども行っていた。20カ国以上の国が国際的支援を行ってくれていたという事実に、助け合いに国境など関係ないのだなと感じた。

そして一番驚いたのは世界から集められた募金の額だった。アメリカやヨーロッパからは政府、市民団体を通して数百億円の募金が集まった。国際赤十字社は各国から集まった募金を日本赤十字社へ送金した。こうして世界各国から集められた募金の合計は二千億円以上に達した。その中でも台湾から二百億円の募金を送られてきており、日本のためにここまで集めてくれたのに感謝の気持ちでいっぱいだった。

また台湾からは物資も多く届いており、毛布や医療品が大量に送られた。ほかにも世界各国から飲料水や衣類、食料など多くの物資が送られてきていた。国連(UNOCHA、UNICEF、WHOなど)からは食料、衣料品の支援、被災者への医療体制強化が行われ、国際赤十字、赤新月社連盟からは募金活動にとどまらず、医療支援が行われた。

このような国際的支援を163の国と地域、43の国際機関から受けていた。日本はこれまで世界の様々な国が被災した際、災害支援や募金活動などを行っていた。東日本大震災のときの援助はこれまでの日本へ対する「恩返し」でもあったのだろう。この出来事から私は「国際協力」とは決して遠い存在ではなく、人間の自然な助け合

いの精神から来ているのではないかと感じた。またこうした国境を越えた助け合いに、国際社会の大切さとその強さを感じた。

私は今、東日本大震災とこの出来事を通して世界各国で起きている災害や紛争、戦争の当事者たちに、少しでも医療環境の改善や物資の調達に不自由がないように意識すべきではないかと思う。「国際協力」の一番の土台は助け合いであると考えている。これは人間の最も重要な部分であり、これから先も必ず必要となってくるだろう。「国際協力」という言葉に囚われず、私たちのような大きな力を持っていない人でも募金への協力や、物資の提供などの小さな積み重ねをすることで、今回の事例のような二千億円の募金額へと繋げることができるかもしれない。小さな助け合いの精神が世界の「国際協力」に繋がるのなら、東日本大震災で学んだ事例とを思いを忘れずに国際的な活動に積極的になり、世界とのつながりを永続的に大切にしていこうと思った。

## 特別賞(山口ロータリークラブ会長賞)

あなたが考える平和とは何か。そのために何をすべきか。

～ 平和のために私が出来ること ～

下関市立安岡中学校 2年 <sup>むらた あい</sup>村田 安衣

8月6日、私はこの先二度と悲惨な戦争が訪れないことを願った。その日テレビをつけると、戦争の映像が映し出される。毎年似たような画像だが、その悲劇の瞬間に慣れることはないし、毎年私に恐怖や不安を感じさせる。だからこそ、多くの人々は二度とこの悲劇を繰り返さないように願い続けてきたのだろう。しかし、今も、終わりの見えない悲劇は続いていた。ロシアによるウクライナ侵攻である。なぜ戦争が続いているのか、今何をすべきなのか疑問に思った私は、争いのない世界にするために国連と私にできることについて考えてみた。

まず、初めに国連について詳しく調べることにした。そもそも、国連には四つの目的がある。一つ目は「国家間の友好関係の発展」二つ目は「国際問題の解決と差別なく人権や自由を尊重すること」三つ目は「平和と安全の維持」四つ目は「中心的役割を果たすこと」である。国連は第二次世界大戦を防ぐことができなかった反省を踏まえて設立した組織である。私はこれを聞いてなおさら、なぜ国連はウクライナ侵攻を防げなかったのか。なぜ戦争を前にして国連は無力になっているのか分からなかった。さらに調べると原因は常任理事国であるロシアが持つ拒否権にあることを知った。私はこの制度があることに違和感を感じた。なぜなら、目的の一つとして平等ではないと思ったからだ。確かに、核を持つ大国の反対を押し切って決定すると争いになる可能性はあるのかもしれない。しかし、世界の中心的役割を果たす国連だからこそ、加盟国に対する平等を守り、世界の手本となる必要があるのではないだろうか。私は、国の格差や大きさに関係なく平等に投票力や発言力を持たせること。それが争いや差別のない世界にするために国連ができることだと思う。

次に、私にできることを考えてみた。争いをなくすことに直接繋がるかは分からないけれど、知るといえることが大切だと思う。広島に原爆が落とされてから80年が経った今、実際にそれを見た人は数少ないだろう。もちろん、私も私の両親も実際の原爆を知らない。けれど、本やテレビ、インターネットを使って戦争を知ることは可能である。戦争を知ることは、二度と同じ悲劇を繰り返さないことにつながると思う。また、人種差別や性差別などの差別があることも争いが起こる原因の一つだと思う。

差別とは、国際的なことだけでなく、私の身の回りにもたくさん溢れている問題である。例えば、インターネットでは容姿や考え方の違いによる誹謗中傷がある。さらに身近な、学校という集団生活の中でも同じようなことが起きているのだ。これらは、自分と違うものを認めることができないから無くならないと思う。まずは、どんな理由があっても、容姿や家柄などによる差別は絶対にしてはいけないと思う。そして、考え方の違いに悩むことは誰だってあると思う。けれど、さまざまな考え方があるのは当然のことなのだから、自分の思いを押し殺す必要も、相手を否定する必要もない。だから、まずは一度相手の思いにきちんと耳を傾けて、一つの考え方として認めるようにしたいと思う。さらに、多種多様な人間、考え方があるからこそその楽しさや一人一人の良さというものをこれから探していきたい。世界から争いや差別をなくすのは、そう簡単ではないと思う。それは、ほぼ不可能に近いのかもしれない。けれど、この世界を守るために必要であり、いつか達成しなければならない課題だと思う。だから、私は私にできる小さなことでも少しずつ達成し、平和な未来に繋がりたいと思う。

第 32 回

高校生によるSDGsに関する  
感想文コンテスト

---

優 秀  
作 品 集

## 特 賞（山口県知事賞）

### SDGs⑭:海の豊かさを守ろう

#### ～ 海と歩む私の未来 ～

山口県立徳山高等学校 3年 <sup>まつなが ななみ</sup>松永 七海

私が生まれ育った山口県は、三方が海に開け豊かな自然に恵まれている。四季折々の表情を見せる海はとても美しく、多くの観光客が訪れる。私は小さな頃から毎週のように家族と海に出かけ、磯で稚魚を採集し、砂浜ではたくさんの種類の貝殻を集め、夢中になって遊んだ。夏には海に飛び込み、水中をのぞくと、目の前にキラキラと輝く魚の群れや、ゆらめく海藻が広がり、胸が高鳴った。私にとって海は、遊び場であり、学びの場であり、心のよりどころでもあった。山口のきれいな海と共に育ってきた私は、「海は当たり前でずっと美しいものだ」と信じ込んでいた。

けれども、成長するにつれて、その海がさまざまな問題を抱えていることを知った。海岸清掃のボランティアに参加し、ポリタンクや洗剤の容器、ペットボトルや漁具などが大量に打ち上げられている光景を見たとき、衝撃を受け、とても残念な気持ちになった。特に清掃が行き届いていない海岸では、国内外から漂着したごみが積み重なり、子どもの頃感じた「美しい海」のイメージが崩れていった。調べてみると、世界では毎年およそ8百万トンものプラスチックごみが新たに海に流入しているという。世界で広がる問題が、私の身近な山口の海にも確かに影を落としているのだと実感した。

その中で特に気になったのは、釣り具のエギに関する問題だ。エギはイカを釣るときに使うプラスチック製の疑似餌で、私自身もよく使ってきた。しかし根掛かりすると糸が切れ、そのまま海に残ってしまう。これが「ゴーストギア」となり、海の生き物を傷つけたり、やがてマイクロプラスチックになって海を汚染したりする。兵庫県の漁師が、海底から1万5千個ものエギを自主回収したという記事を見たとき、私は驚くと同時に、自分もまた無意識のうちにこの問題に加担していたのだと気づいた。これは個人の問題ではなく、大きな社会課題であり、もっと広く知ってもらわなければならないと強く思った。

「このままでは、山口の美しい海を次の世代に残せない。」そう強く感じた私は、「海にやさしいエギを作りたい」と思うようになった。そこで目を向けたのが、地元で廃棄されている「イカの甲」だった。山口県は昔からイカ漁が盛んで、ケンサキイカがブランド化されている。そこで、地元の飲食店やスーパーから廃棄されるイカの

甲を提供いただき、それを材料に生分解性のプラスチックをつくる研究に取り組んだ。イカの甲に含まれるβキチンをプラスチックにする研究は前例がなく、試行錯誤を重ねた。その結果、実際にプラスチックを作ること成功し、その素材でエギを作ってイカを釣ることができた。成功の喜びとともに、「海のために、もっとよいものを生み出したい」という思いが強まった。もちろん、研究はまだ道半ばだ。作ったエギは強度や耐久性には課題が残った。それでも、「廃棄物を資源に変え、新しい価値を生み出す」発想の大切さを実感できたことは大きな収穫だった。これはSDGs⑭「海の豊かさを守ろう」だけでなく、⑫「つくる責任つかう責任」にもつながると感じた。

振り返ると、私が海の環境問題に強く関心を持つようになった背景には、ガールスカウトでの活動もある。小学二年生から参加し、国際交流や環境学習を通して世界のさまざまな課題を学んだ。その中で「海は国境を越えてつながっている」という事実気づいた。日本から流れ出たごみが、遠い国の海岸に漂着することもある。だからこそ、海を守るには一国だけでなく、多くの国や人々が協力し合う必要があるのだ。

小学生から現在までの10年間、海に関する研究を続け、高校生になってからは、大学の科学者育成プログラムや高校生国際共同研究プロジェクトなどに参加し、国内外の高校生や専門家と交流してきた。多様な視点から物事を見る大切さを知り、新しい知識を得ると共に、意見を交わすことで自分の考えをより深めることができた。「研究は、社会や世界とつながってこそ意味がある」という学びを得たのも大きな経験だった。

私の夢は、海洋環境を守る研究者として世界を駆け巡ることだ。山口の美しい海と共に育ったからこそ、その豊かさを次の世代につなぎたい。そのために、まずは自分が行動を起こすことが大切だ。研究活動や海岸清掃ボランティアへの参加は小さな一歩かもしれない。けれども、その積み重ねが未来につながると信じている。

青い海でのたくさんの思い出。幼い日の私を夢中にさせた魚たちや貝殻との出会いのように、未来の子どもたちにも海のわくわくを感じてもらいたい。山口の海がずっと美しくあり続けられるように、私はこれからも学び、挑戦を続けていく。

## 特 賞(日本国際連合協会山口県本部長賞)

### SDGs⑬: 気候変動に具体的な対策を

～「好き」で未来を切り拓こう～

野田学園高等学校 2年 <sup>しんたに</sup>新谷 <sup>あやこ</sup>綾子

「薪ストーブとコーヒーかなあ」と父は言った。私は昨年地球温暖化の原因、影響や対策について調べたが、どれも規模が大きすぎて、あまり実感がわかなかった。しかし、調べる過程で知った「悪い行いをするものが世界を滅ぼすのではない。それを見ていながら何もしない者が滅ぼすのだ」というアインシュタインの言葉が、心のどこかで引っかかっていた。私は何もしていない。ならばせめて、家族が何かしていないだろうかと父に尋ねた回答が、冒頭の言葉だ。

我が家には、父の趣味で薪ストーブがある。私も冬に薪ストーブの前で家族と過ごす時間が好きだ。薪は家具工房の端材や森林組合の間伐材を安く購入したり、りんご園の剪定した木をもらったりしている。

薪ストーブで薪を燃焼させる際に二酸化炭素が排出されるが、木が成長する過程で二酸化炭素を吸収しているため、大気中の二酸化炭素の増減に影響を与えないとみなされている。また、間伐材や不要木を薪として利用することで、森林の整備や活性化につながっている。

さらに、高性能な薪ストーブの導入や、薪の効率的な燃焼方法の採用により、環境負荷を低減できることを知った。高性能な薪ストーブとはどのようなものか調べると、二次燃焼システムというものがあつた。二次燃焼システムとは、一次燃焼で発生した可燃ガスを再度燃焼させる仕組みのことで、薪ストーブの燃焼効率を高め、よりクリーンな排気を実現するために重要な役割を果たしている。調べてみると我が家の薪ストーブにも二次燃焼システムが備わっていることが分かり、安心した。

薪ストーブについては、温暖化対策になるということがイメージしやすかったが、コーヒーについては、なぜ温暖化対策になるのか全くわからなかった。

私の母は自宅で小さなカフェを営んでいる。そこで使用されているコーヒー豆はどの国のどの農園で栽培されているかはっきりわかるものばかりだ。両親は、そのコーヒーがとてもおいしいと言っていて、私もこのコーヒー豆で作ったコーヒーゼリーが大好きだ。しかし、そのコーヒー豆を購入することがなぜ温暖化対策になるのだろうか。

コーヒーの木は熱帯で育ち、本来は日陰を好む植物だ。このためコーヒーの木は森

林の中で栽培でき、生態系の保全と両立できる可能性がある。しかし、現在、大半のコーヒーの木は森林を切り開いて造成された農地で栽培されている。我が家で購入しているコーヒー豆は、生態系に配慮しながら栽培している農園のものである。

さらに、コーヒー豆の生産は温暖化だけではなく、他のSDGsに関係している。例えば、フェアトレードである。産業や輸出をコーヒーに頼っている国にとってコーヒーは唯一の換金作物といっても過言ではなく、多くの人々がその栽培で生計を立てている。このため、生産者が技術の向上を通じてコーヒーの品質を高め、適切な価格で販売できるようになれば、生産者の収入が増え、国全体の経済発展に大きく寄与する可能性がある。

環境や労働環境に配慮しながら、品質を高める努力をしている農園のコーヒー豆はとても高価だ。近所の店で売られている豆の2倍以上する。そのような農園のコーヒー豆を購入することで、我が家もSDGsに貢献していたのだ。

これまで述べた薪ストーブとコーヒー豆に関する共通点は、関わるすべてのものがウィンウィンの関係だということだ。りんご園は不要木の処分の手間と費用が省け、私たちは、暖房費を節約して炎を楽しみ、温暖化対策にも貢献している。コーヒー農園は高収入が得られ、私たちはおいしいコーヒーを楽しみ、SDGsにも貢献している。環境にも人間にもいい行動は増やしていくべきだと思う。そのウィンウィンの関係の土台となるのは「好き」という気持ちだ。「対策をしよう」という気持ちだけでは行動しにくく、続かない。小さなアクションが世界中に広がって、SDGsを達成できるときが来ると願って、「好き」という気持ちから出発してみよう。

私はチョコレートが好きだ。「チョコレート」「SDGs」と検索してみると、「児童労働に頼らない」「低農薬で環境に配慮」「農家に安定した収入を」などの言葉がたくさんあった。「好き」から出発して、現実を知り、私たちにできることを考えることが大切だ。

## 優秀賞(公益財団法人山口県国際交流協会理事長賞)

### SDGs④: 質の高い教育をみんなに

～ すべての人に質の高い教育を ～

野田学園高等学校 2年 <sup>でぐち</sup>出口 <sup>りお</sup>莉麻

「勉強したいのにできない子がいる」

この言葉を初めて聞いたとき、私は正直ピンときませんでした。学校に通うのは当たり前、授業を受けて、宿題をして、テストを受ける。そんな日常が「特別な権利」だとは思っていなかったからです。しかし、2024年の「SDGs QUEST みらい甲子園」への応募作品を準備していく過程で、私はこの常識が当たり前ではないことを知りました。さらに、私たちのチームのアイデアが山口県大会で西京銀行賞をいただいたことで、教育の機会をすべての人に届けるにはどうすればいいのかというのをより一層深く考えるようになりました。そして、同世代の仲間たちと意見を交わし合う中で、「教育」は社会における最も重要な土台であり、決して一部の人のためにあるものではないことに気づかされました。

SDGs（持続可能な開発目標）の4番目の目標は、「質の高い教育をみんなに」です。これは、世界中のすべての人が平等に、そして内容的にも充実した教育を受けられるようにしよう、という目標です。読み書きができるようになることや、職業に就くための技能を学べるだけでなく、自分らしく生きるために必要な知識や価値観を育てる学びも含まれます。私たちのチームがみらい甲子園でとりあげたのは、ヤングケアラーと呼ばれる若者たちの問題です。ヤングケアラーとは、本来大人が担うべき家事や家庭の世話、看病などを日常的に行っている18歳未満の子どもや若者のことです。日本国内でも、実は高校生のおよそ17人に1人がヤングケアラーである可能性があると言われています。にもかかわらず、その存在はまだ広く認知されていません。彼らは、家族の介護や世話を担うために、勉強や進学をあきらめざるを得ない状況にあるというのが現実です。家庭の事情という外部からは見えづらい壁に阻まれ、「学びたくても学べない」環境に置かれている人がいるのです。中には小学五年生で家事のすべてをこなし、中学生になると祖父母の介護まで担当しているという例もありました。しかもこうした子どもたちの多くが、自分が特別な状況にあると気づかず、相談するという選択肢すら持っていないという現実を知ったのです。この経験を通して私は、「質の高い教育」の実現には、ただ学校に通える環境を整えるだけで

は足りないと痛感しました。教育を受けるには、「心の余裕」「安心できる家庭環境」「周囲からの理解」といった見えない支えが必要不可欠です。そしてそれを整えるのは家庭だけの責任ではなく、社会全体の役割だと感じるようになりました。行政や学校、地域、そして私たち若者自身も、お互いに支え合いながら教育の格差を埋める取り組みを進める必要があります。

また、教育の不平等は日本国内だけの問題ではありません。世界には、学校そのものが存在しない地域や、女の子だからという理由で通学を禁じられている国もあります。貧困や戦争、文化的な制約などによって、多くの子どもたちが教育の機会を奪われています。たとえば、内戦が続く国では学校が破壊され安全に通学する手段が失われています。さらに、農村部では子どもたちが家計を支える労働力として働かざるを得ず、学ぶことよりも生活が優先されてしまう現実もあります。こうした現実を知れば知るほど、「自分たちには関係ない」と無関心でいることが、一番の問題なのではないかと思うようになりました。問題を知ること、それに対して自分にできることは何か、と考えることが、私たちにとっての第一歩だと思います。そしてそれは、たとえ小さな行動であっても確実に誰かの未来につながると考えます。

「学びたい」と願うすべての人に、学ぶ自由を届けたいというのは国境を越えた願いであり時代を超えて必要とされる価値です。私たち一人ひとりがその実現の一端を担っているという意識を持つことが、SDGsの本当の意味だと思います。

私は将来、教育に関わる仕事に就きたいと考えています。ただ知識を教えるのではなく、「学びの楽しさ」や「学ぶ権利」を誰にでも実感してもらえるような環境づくりに携わりたいです。例えば学校に行けない子どもたちのためのオンライン学習支援や、ヤングケアラー向けの学習スペースの設立にも関わってみたいです。一人ひとりが、自分の夢を諦めなくていい社会をつくるために、そしてそのスタートラインに立てるようにするのが、「質の高い教育」のあるべき姿だと思っています。教育に希望を持てる社会の実現をめざし、これからも自分にできることを一つひとつ積み重ねていきたいと考えています。

## 優秀賞(山口県ユネスコ連絡協議会長賞)

### SDGs⑯: 平和と公正をすべての人に

#### ～ 揺れる瓶の正体 ～

萩光塩学院高等学校 2年 しまだ ひろむ 島田 大陸

サッカー日本代表の観戦をしていた時、僕は人種差別を目にした。それは、相手国の選手がゴールを決めた際に耳に手を当て、「猿の真似をする」というものだった。これはモンキーチャントと呼ばれ、主に黒人やアジア人に対して行われる人種差別的行為である。なぜ世界では差別が起こってしまうのか、全く理解することができなかった。

ある日、「百匹の赤蟻と百匹の黒蟻」という寓話に出会った。百匹の黒蟻と百匹の赤蟻を同じ瓶に入れても何も起こらない。普段は静かに共存している。しかし、どうしたことだろうか。誰かがその瓶を激しく振ると、蟻たちは互いを敵とみなし、全滅するまで争い合う。蟻たちは自分たちを攻撃しているのはすぐそばにいる違う色の蟻だと信じ込むが、本当の敵、つまり「瓶を振った存在」について考えもしない。この二色の蟻に関する寓話は、人間社会にも当てはめることができるのではないかと考えた。「社会という瓶」は激しく揺さぶられる。メディア、SNS、演説。それらは日を追うごとに熱を帯び、時に私たちの不安や怒りを掻き立てる。瓶の中の赤蟻と黒蟻とは何だろうか。それは、宗教、価値観、人種、あるいは特定の政策に対する賛成派と反対派といった、社会に存在する様々な「対立構造」に置き換えられる。そして「瓶を振る」とは、国民の間に分断を生み出し、対立を煽る行為そのものである。政策の本質的な議論よりも、相手へのネガティブキャンペーンやレッテル貼りが横行し、「あちら側は間違っている」「こちら側が正しい」という単純な二元論が声高に叫ばれる。このような言論は、人々の感情に訴えかけやすく、瓶を激しく揺さぶる。この話が教えてくれるのは、「目の前の蟻に敵意を向けるのではなく、瓶を揺さぶる手に意識を向けることが大事である」という視点だ。「長期的な経済の停滞や格差の拡大」「変わりゆく国際社会の中での日本の安全と平和」「気候変動や大規模な災害の備え」など、私たちが共に立ち向かうべきは、このような大きな課題ではないだろうか。これらは赤蟻も黒蟻も関係なく、瓶の中にいる全員に等しく襲いかかる。しかし、瓶を振る声にかき消され、私たちは仲間同士の争いにエネルギーを消耗し、こうした本質的

な問題への対処を疎かにしてしまう危険性がある。この話から得られる教訓は、感情的な対立の波に乗って思考停止に陥らないことだ。もしかしたら、私たち自身も無意識のうちにその瓶を揺らす側に加担しているのかもしれないと、自らを省みることが大切なのだ。「誰が、どのような意図で瓶を振っているのか」を冷静に観察し、その言論が生産的な議論を促すものなのか、それとも単に憎しみを煽るだけのものなのかを見極めることが求められる。例えば最近、アメリカではトランプ大統領が性別を「男」と「女」に限定する政策を打ち出した。この政策により、一部の当事者がいじめや排除に苦しみ、国外に移住するケースも報じられている。もしトランプ大統領がこの政策をしなければその当事者が被害を受けることはなかったかもしれない。今回の政策は、世界的に多様性を進めようとする流れに逆行しており、単に憎しみを煽る政策に過ぎない。今は、簡単に大量の情報を得ることも可能だ。だからこそ、この先の社会を生き抜いていくためには「本当にこの情報は正しいのか」「ソースはなんなのか」をしっかりと理解し、自分なりに情報を整理していく力が必要である。一時期Xで「ヴィーガンの主張を押し付けしないで」という投稿が話題となった。しかし、実際に自分の意志に反して動物の搾取をやめるよう強要されたことが、果たしてどれほどあるだろうか。そもそも、日本におけるヴィーガン人口は推定2%に過ぎない。それにも関わらず、多くの人が「押し付けがましい」と感じている。おそらく大半は、直接自分に言われたわけではなく、SNSで見た情報を通して「押し付けられた」と思い込んでいるのだろう。もちろん、中には実際に押し付けられて嫌な思いをした人もいるかもしれない。しかし、その怒りを向けるべきは「押し付けてきたその人」であって、「ヴィーガン」という属性全体ではないはずだ。一部の事例を取り上げて、全体を評価することはあってはならない。

選挙は、誰かを攻撃したり、社会に分断を生むための機会ではない。目の前の小さな対立に最も声高になるのではなく、社会全体の大きな課題に最も真摯に向き合い、それを解決する力を持っているのはだれかという視点で判断すべきだ。私たちが何に共に向き合うべきかを考え、そのための代表者を選ぶ貴重な機会である。瓶の中で争い続けるか、それとも、共に瓶の外にある驚異に立ち向かうのか。一人ひとりが冷静な判断をしていかなければならない。

## 特別賞(国際ソロプチミスト山口賞)

### SDGs⑭: 海の豊かさを守ろう

～ 海 ～

萩光塩学院高等学校 2年 う え だ て ん せ い 上田 天晴

持続可能な開発目標 14 番目の海の豊かさを守ろうについて書きました。

海には、多くの魚やさまざまな生き物が住んでおり、貴重な生態系を支えています。しかし近年、プラスチックや空き缶、古くなった金属などのゴミによって海が汚染され、海の生き物たちが危険にさらされていることを知りました。ニュースやSNSでその状況を目にするたび、自分にできることはないかと考えるようになりました。そのため、私は海に行く際、泳ぎながら目に見えたゴミをなるべく拾うことを心がけています。

ある日、海で泳いでいた際、思わず立ち止まるものを見つけました。それは消火器でした。どのようにして海に落ちたのか疑問に思いながら近づくと、その中はイカの卵の産卵場所になっていました。消火器がイカの住処になっていたのです。イカの卵は小さく消火器の中を埋めつくしていました。近くには卵を産んだイカなのかは、わかりませんがイカが泳いでいました。その光景はまさに生命の営みそのものでした。普段はゴミとしてしか見えないものの中に命が育まれていることを目の当たりにし、海の中には私たちが気づかない小さな命が数多く存在していることを強く実感しました。

その体験後、動画配信アプリであるニュースが流れてきました。それは、外国では使用できなくなった戦車や船を海に沈め、人工的に魚の住処を作る取り組みが行われているというニュースでした。アメリカやオーストラリアでは、古い船を清掃・処理したうえで海に沈めることで、魚が集まりやすい環境を作り漁業資源の回復や生態系の保護を目指しています。沈められた人工物の周囲にはサンゴや海藻が付着し、小さな貝やエビ、カニなども住みつくそうです。人間の不要物が海の生き物の役に立つ場合もあることを知り、ゴミは必ずしも海の中の生き物に悪影響があるわけではないと知りました。しかし悪影響を与えるものも多いです。

海でゴミを拾っていると、ビニール袋やペットボトル、空き缶などのゴミが多く自

然を汚していると感じました。しかし、消火器の中の卵のように、人間のものが命の場所になることもあります。その瞬間、自然の生態系の不思議さを感じました。海の水は透明で青く美しいが、砂浜や海底や波打ち際には多くのゴミが存在します。太陽の光が水面に反射してキラキラと輝き、しおの香りとしおの風を感じる中で、魚たちが小さく動き回る姿を見ると、自分はすごく落ち着きます。永遠にこの風景を残したいと思います。私の小さな行動で海の生き物の命に関わるかもしれないので気をつけて海を楽しみたいと思います。また、波の音や潮の匂いや砂の感触といった自然の一つ一つが、海の豊かさを象徴していることを改めて感じ、守っていきたいと思いました。

私は、今後も海に行くたびにゴミを拾い続けるつもりです。そして、周囲の人々に「小さな行動で海を守ることができる」と伝えていきたいです。一人の力は小さくても、みんなが少しずつ意識して行動すれば、海はよりきれいになると思い行動します。プラスチックの使用を減らす努力やリサイクルを意識することでゴミを出さない工夫も、日常生活の中で海を守る方法のひとつです。また、私たちの学校ではボランティア活動が盛んで海岸清掃やごみ拾いを行っています。地域の環境活動に参加することも、海を守る意識を広める手助けになると思います。

私の経験は一例に過ぎませんが、日々の行動や考え方が地球の未来に影響することを感じました。海の豊かさを守ることは、私たち人間にとっても、海の生き物にとっても欠かせないことだと思います。今後も自分にできることをやり、海の命や美しさを守り続けたいと思います。そして、より多くの人が海の大切さに気づき、行動するようになることを願っています。未来でも安心して美しい海を楽しめるよう、海の手を守る努力を続けていきたいと思います。私たち一人ひとりの小さな行動が、地球の未来をつくることを忘れず、今後も責任を持って取り組みたいと思います。

## 特別賞(山口ロータリークラブ会長賞)

### SDGs⑥: 安全な水とトイレを世界中に

#### ～ オーストラリアで感じた世界の課題 ～

萩光塩学院高等学校 2年 <sup>たむら</sup>田村 <sup>いおり</sup>衣織

シャワーを何分浴びているか考えたり、意識したことはありますか？私は、去年の夏オーストラリアに約2週間留学に行くまで考えたことなどありませんでした。オーストラリアでお世話になったホストファミリーのお母さんに「シャワーは3分以内ね。」と伝えられたことを今でも覚えています。オーストラリアは、水がとても貴重なため、水をとても大切にする国として有名です。シャワー以外にも、大きな貯水タンクが庭にあったり、バスタブには入る習慣がなかったり、トイレで流れる水の量が他国より少なかったり、使った食器は拭いたりするなど、とにかく沢山の節水方法があり、学ぶことができました。しかし、日本に帰ってきて、オーストラリアとの意識の違いにとっても驚きました。日本のシャワーの平均時間は8～15分です。当たり前なのにこのくらいの時間、水を使い、その上、毎日お風呂にも入ります。また、食器も水で洗い、トイレの水の量もオーストラリアより多いです。しかし、それは私たちが水資源の貴重さを実感する機会が少ないからだと感じます。

同じ地球に住んでいるのにも関わらず、私たちは今水に困っていないからという理由だけで、このような生活をしてでもいいのでしょうか。私は同じ地球に住んでいる以上一緒に取り組みたいと思いました。私が日本に帰ってから始めた行動が二つあります。

一つ目は、紙を大切にする行動についてです。学校や両親の職場で出た捨てる予定のプリントを持ち帰り、ノートのように使っています。初めは、水と紙どこがどのように繋がるのか分かりませんでした。水と紙は意外にも共通する部分がありました。調べてみると、雨や雪として地面に降り注いだ水が、森の中に浸み込みます。地層は汚れを取り除き、綺麗な地下水となって流れ、一部は湧水として再び地上に出てきます。きれいな水を生みだすのに、森は大きな役目を果たしていることを知りました。その森を守るために木を守る、木を守るために、紙を大切にする、このような行動に結びつきました。

また、両面印刷を心がけるなどの方法もあります。紙の生産には多くの水が使われており、1枚のA4用紙を作るのに約10リットルもの水が必要だと現地の授業で知ったときは、本当に驚きました。身近な紙を無駄にしないことが、水の保全に繋がっているという意識を持てるようになったのは、自分の中で大きな変化です。

二つ目は、花にあげる水を雨水に変える行動についてです。私の家の周りには多くの花が咲いています。そのため、水やりもとても多くの水を使用します。そのような現状を変えるために、雨が降っている日は、外にバケツをいくつか置き、水を溜めます。そして、その水を晴れている日に使用しています。今の日本は、とても極端な天気が続いています。そのため、大雨の時などたくさんの水を溜めることができます。最近の日本の天気と節水を組み合わせた活動です。

このような行動を今、私は家族や友達と取り組んでいます。しかし、身近な人だけで終わらせるのではなく、より多くの人に取り組んでもらうために、私は環境問題に関して意見を交換するプロジェクトに参加し、伝えています。そのような機会が、このような現実や行動の方法を知ることができると思っています。私も、実際にオーストラリアに行くことができたからこそ、そのような現実を知り、行動に移すことができました。まずは、今の世界各国の問題、現状について知ることが大切だと感じています。ニュースなどから情報を得て、現実を変える行動をすることができれば、私たちが住み続けることのできる地球を守ることができると思います。

また、オーストラリアで過ごした2週間は節水方法以外にも多くの環境に対する取り組みがありました。しかし、不便を感じることはありませんでした。日本人は世界の人と比べて、地球温暖化対策に対してネガティブな感情である不便やめんどくさいという思いを抱いている人が多いというデータもあります。しかし、実際にオーストラリアでそのような生活を送ってみて、不便、めんどくさいとを感じることはありませんでした。

そのため、私は、これからも他国の問題に目を向け、まずは現実を知ること。そして、その現実を変えるために行動すること。自分が以前持っていた意識・感情から離れること。これらを大切にしていきたいと思っています。

## 佳作

### SDGs⑪: 住み続けられるまちづくりを

～ 未来のくらしのために ～

野田学園高等学校 2年 <sup>もりふく あおい</sup> 森福 歩生

私たちが暮らす社会をより良いものにしていくために、国連が掲げた持続可能な開発目標の中には17の目標があります。その中でも、私が特に注目したのは目標11「住み続けられるまちづくりを」です。世界の人口の半分以上が都市に暮らすようになった現在、都市化が進むことで住宅不足、交通渋滞、大気汚染、災害への弱さといったさまざまな問題が生まれています。安全で安心して暮らせる街をどのように実現するかは、世界にとっても日本にとっても、そして私たち自身の未来にとっても重要な課題です。

まず、日本において大きな問題となるのは自然災害です。地震や台風、大雨による洪水や土砂災害は、毎年のように各地で発生しています。特に都市部では人口や建物が集中しているため、一度災害が起きると被害は大きくなります。さらに、高齢者や障害のある人など、災害時に弱い立場にある人々が安全に避難できるようにすることは、大切なまちづくりの課題です。私の地域でも毎年防災訓練が行われていますが、そこで強調されるのは「弱い立場にある人への支援」です。例えば車いすで避難できるようにする工夫や、外国人にも理解できる避難情報の発信が必要だと学びました。こうした取り組みを通して、すべての人が安心して暮らせるまちに一步近づけると感じます。

次に、環境に優しいまちづくりについて考えます。都市には自動車が集中するため、大気汚染や二酸化炭素の排出量が増えやすい傾向があります。これを解決するためには、公共交通機関の充実や、自転車や徒歩で移動しやすい街づくりが必要です。また、都市の中心に緑地や公園を設けることは、ヒートアイランド現象をやわらげる効果がありますし、人々の憩いの場を提供するという面でも大切です。私自身もできるだけ自転車を使うようにしたり、買い物にはマイバッグを持参したりしています。小さな行動でも積み重ねれば、環境に配慮したまちづくりにつながると信じています。

そして私が特に注目したのは「空き家」の問題です。近所を歩いていると、長い間

人が住んでいない家を見かけることがあります。気になって調べてみると、日本全体の空き家は約849万戸にのぼり、住宅全体の1割を超えていることが分かりました。人口減少や高齢化に伴って誰も住まなくなった家が増え、社会問題になっているのです。

空き家はただの「使われていない建物」ではありません。放置されれば倒壊の危険や景観の悪化、不法投棄や犯罪の温床といった問題を生み出します。一方で、適切に活用できれば、新しい住居、地域の交流の場、子育て支援の拠点などに生まれ変わる可能性もあります。しかし、実際に調べてみると、空き家の所有者が遠方に住んでいたり、相続の問題が複雑に絡んでいたりして、活用するまでには多くの難しさがあることも分かりました。私はその複雑さに驚くと同時に、「空き家対策は簡単ではないが、まちの未来を考えるうえで避けて通れない課題だ」と強く感じました。

こうした調べ学習を通して、まちづくりには多様な視点と多くの人の協力が必要だと気づきました。空き家をどうするかという一つの問題だけをとっても、法律や制度、地域住民の協力など、さまざまな要素が関わっています。だからこそ、行政や専門家だけでなく、市民一人ひとりが関心を持ち、意見を出し合うことが大切だと思います。私自身も、もし地域で空き家を活用した子ども食堂や交流施設があれば積極的に参加したいですし、学んだことを周りに伝えていきたいと思いました。

このように、目標11「住み続けられるまちづくりを」は、自然災害への対策、環境にやさしい都市設計、そして空き家問題を含めた「誰もが暮らせるまちづくり」という3つの側面から考えることができます。そしてそのすべては、私たちの身近な生活と深く結びついています。まちは行政や企業だけがつくるものではなく、住む人々の意識と行動によって支えられているのです。

SDGsの最終目標年である2030年は、決して遠い未来ではありません。そこで生きるのは私たちであり、次の世代の子どもたちです。住み続けられるまちを実現するために、今日からできることを考え、行動に移していくことが大切です。安心・安全で、誰もが笑顔で暮らせるまちを未来へ引き継ぐために、私はこれからも小さな努力を続けていきたいです。

# 2025 年度募集要項

## 第 65 回「国際理解・国際協力のための中学生作文コンテスト」山口県大会

- ◆ **テーマ** 作文の題目は、「①あなたが考える平和とは何か。そのために何をすべきか。」、「②複数の国で協力して、取り組むべきと考える優先課題は何か。」又は「③国連創設後の80年間で世界はどのように変化したと考えるか。今後の国連の使命は何か。」のうちいずれか一つとします。なお、作文の内容は、学校、家庭、社会などにおける執筆者の学習や体験あるいは実践などを通し、国際連合について述べたものとします。
- ◆ **応募資格** 県内在住、在学の中学校生徒または左記に準ずる在日学校在学学生
- ◆ **原稿制限** 400字詰め原稿用紙 4 枚以内
- ◆ **入選賞** 特賞：2 名、優秀賞：2 名、特別賞：2 名（副賞：図書カード、参加賞：文房具等）

## 第 32 回「高校生による SDGs に関する感想文コンテスト」

- ◆ **テーマ** 題目は自由。作文の内容は、持続可能な開発目標（SDGs）のうち、いずれか一つを選択し、選択した開発目標について、学校、家庭、社会などにおける執筆者の学習や体験あるいは実践などについて述べたものとします。

### 持続可能な開発目標（SDGs）

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現のため、2030年を年限とする 17の国際目標

- |                      |                 |
|----------------------|-----------------|
| ① 貧困をなくそう            | ② 飢餓をゼロに        |
| ③ すべての人に健康と福祉を       | ④ 質の高い教育をみんなに   |
| ⑤ ジェンダー平等を実現しよう      | ⑥ 安全な水とトイレを世界中に |
| ⑦ エネルギーをみんなにそしてクリーンに | ⑧ 働きがいも経済成長も    |
| ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう    | ⑩ 人や国の不平等をなくそう  |
| ⑪ 住み続けられるまちづくりを      | ⑫ つくる責任つかう責任    |
| ⑬ 気候変動に具体的な対策を       | ⑭ 海の豊かさを守ろう     |
| ⑮ 陸の豊かさを守ろう          | ⑯ 平和と公正をすべての人に  |
| ⑰ パートナリーシップで目標を達成しよう |                 |

- ◆ **応募資格** 県内在住、在学の高等学校生徒（全日制、定時制、通信制）または高等専門学校生徒（ただし、3 年生まで）
- ◆ **原稿制限** 400字詰め原稿用紙 5 枚以内
- ◆ **入選賞** 特賞：2 名、優秀賞：2 名、特別賞：2 名（副賞：図書カード、参加賞：文房具等）

## 共 通 事 項

- ◆ **締切及び審査と発表**  
令和 7 年 9 月 3 日（水）必着。主催団体において審査し、10 月中旬に入選者に連絡します。
- ◆ **応募作品の取り扱い**  
① 応募作品は返却しません。② 入賞作品の著作権は、主催団体に帰属します。③ 作品は自作・未発表のものに限ります。④ 中学生による作文の特賞受賞作品については、全国コンクールへ出品します。
- ◆ **個人情報について**  
応募者の個人情報については、選考及び応募者への連絡のために利用します。これらの目的のほかに応募者の個人情報を利用することはありません。
- ◆ **応募先・お問い合わせ先**  
〒753-8501 山口市滝町 1-1 山口県観光スポーツ文化部国際課内  
日本国際連合協会山口県本部 TEL 083-933-2340 <https://unaj-yamaguchi.sakura.ne.jp/>

**令和 7 年 1 0 月発行**

発行元

日本国際連合協会山口県本部

〒753－8501 山口市滝町 1－1

山口県観光スポーツ文化部国際課内

TEL (083) 933－2340



日本国際連合協会山口県本部